

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

難しい本は書いた著者が悪い 鎌田 浩毅 (京都大学大学院教授)

1. 哲学者のショウペンハウエルの著「読書について」には、読む価値のある本について明快に指摘する。「比類なく卓越した精神の持ち主、すなわちあらゆる時代、あらゆる民族の生んだ天才の作品だけを熟読すべきである」。すなわち、古典を読めば間違いなく、とりわけギリシャ・ローマの古典に勝るものはないと断言する。
2. ショウペンハウエルは難解な本の書き手に痛烈な批判を浴びせる。難しい本を書いた人が悪い、と喝破する。作家には二つのタイプがある。第1のタイプは、経験を積み、語るべき思想を持つ人々である。第2のタイプは、金銭を必要とし、金銭のために書く人々だ。彼らは「曖昧な思想や歪曲された不自然な思想を次々と丹念にくりひろげて行く。したがって、その文章には明確さ、非の打ちようのない明瞭さが欠けている」。
3. 難しい本に出合ったとき、自分の学力や読解力が不足しているからだと思った方はいないだろうか。それはまったく違う。本当は、難しい本を書いた著者が悪いのである。

(参考:「週刊東洋経済」2010年7月17日号)

人事・労務について

自発的に働く 2 つの仕組み

丹 道夫 (富士そば「年商 70 億円」社長)

1. 人間が自発的かつ食欲に働くためには、2 つの仕組みが必要である。1 つは、任せるからには、とことん任す仕組み。もう 1 つは、頑張ったら頑張っただけ、給料とポストを与える仕組みだ。
2. 任せたといいながら、ああでもないこうでもない口を出す社長は多い。彼らは、人をこき使うわりに、お金もポストもあまりくれない。これではやる気は出ない。だから、反対に自由に手腕を発揮できて、なおかつ、頑張ったらお金と地位をきちんともらえる環境をつくれれば、本当は楽をしたがる人間でも一生懸命働くものだ。

(参考:「日経トップリーダー」: 2010年9月号)

心・健康・環境について

横柄・横暴・横着な人とはつき合わない

櫻田 厚 (モスフードサービス社長)

1. 5 年ほど前から体重増加をきっかけに、ウォーキングを始めました。医師によれば、歩くことで足の裏が刺激されると、全身の健康に働くそうです。これは健康維持のために無理に続けているわけではありません。自分が楽しい、気持ちがいいと思えてのことです。そして何より元気になれるのは、人と会って話をするからです。
2. その時、自分の中で決めているルールが 1 つあります。それは「横柄・横暴・横着な人とはつき合わない」ということです。そうした人は、初対面で、挨拶をする時の表情や態度、言葉遣いなどからすぐに分かるものです。そんな人と会った時には反面教師として、以後の付き合いは控えるようにしています。

(参考:「日経ビジネス」2010年7月19日号)

古典に学ぶ

長期的な視野と大局的判断

「すみやかなるをほつ欲するなかれ。しょうり小利を見るなかれ。すみ速やかならんとほつ欲すれば即ちたつ達せず。しょうり小利を見れば、即ちだいじな大事成らず」

(訳) 孔子が政治に取り組む心構えについて尋ねられたときに、答えた言葉です。「あせらぬこと、そして目先の小利に惑わされないことだ。あせると息切れを起こすし、小利に惑わされると、大きな仕事を成し遂げることはできない」となる。(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)